

人や地域とのつながりで 楽しく、元気に、健康に

ーアグリパークプロジェクトー

咲き始めた対州そばの花

アグリパークに2度目の秋がやってきます

長い間放置され、誰も来なくなっていた農地に

今、`老若男女、の賑やかな声が響いています

作物は、タネを蒔くだけでは育ちません

土や肥料、時には茎を支え、成長を助けることも必要です

このプロジェクトも、多くの人たちが関わり

アイデアや資材、労力、そして熱い思いなど

いろいろな物を持ち寄って成長を支えています

お金や物の豊かさでは満たされない

「心」を豊かにする取組が始まっています



「アグリパークプロジェクト」って？

厳原町久田地区の山あいにある、20年以上放置されていた農地を利用して、昨年からスタートした取組です。農地の再整備から始まり、対州そばなど対馬の伝統作物を植えたり、かまどを作ったりして、いろいろな人が集い、農業を通じてコミュニケーションができる空間づくりを行っています。

アグリパークが生まれた背景には、対馬が抱える人口減少や高齢化という大きな問題があります。2015年（平成27年）に、市民の3人に1人が65歳以上の高齢者となった対馬市。高齢化は年々進み、20年後には人口の半が高齢者になる予測がされています。そのような中、住み慣れた地域で安心して楽しく生活することを目指し、久田地区地域づくり計画に基づく市民農園事業として、スタートしたのがこのプロジェクトです。

歳を重ねても心豊かに暮らすために

高齢になり、医療や介護などが必要な状況になっても、適切なサービスを受けながら、自分らしく日常生活を送りたいものです。しかし、現在の介護施設や介護サービス等では、それを実現することが難しくなっています。その願いを実現するためには、住んでいる地域の社会資源（地域を取り巻く環境や、人のつながり、地域産業など）を活用しながら、住み慣れた場所で安心して、心豊かに暮らし続けることができる仕組み作りが必要ではないでしょうか。これは地域が医療と介護と連携し、共に協力しあって、その地域にあったものを作り上げるものであり、アグリパークは、その役割も担っています。

「何もすることがない」「生かぎがいない」「生かぎがいない」
いづらは診療所に診察に来る高齢者からそんな話をよく聞きます。対馬に住む先輩方が、そんなことを言っていたら、若い人たちはどう思うでしょうか？対馬に希望を抱くことができますでしょうか。

古代から続く歴史や豊かな自然、そして美味しい魚や、対馬にしかない食べ物の数々。対馬は他所にない魅力に溢れた場所です。

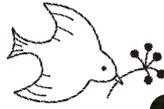
私は、アグリパークを高齢者の生かぎづくりの場、対馬の素晴らしいさを伝える場、世代を越えて、助け合いながらみんなで作る場所にしたいと考えています。



いづらは診療所
所長 桑原 直行（対馬市医療統括官）

対馬には何もないと
言って欲しくない

アグリパークのあゆみ



平成29年3月



平成29年5月



平成29年8月



平成29年10月



アグリパークには、地域の人たちの他にも、いろいろな場所から人が訪れ、作業に加わります。その中で、ひときわ元気に作業しているのが、大都市圏から来た大学生です。地域再生の現場を体感しようと対馬を訪れ、多くのことを発見していきます。中には対馬のことが大好きになり、何度も参加する学生もいます。



明治大学法学部
3年 中澤 萌さん

対馬に流れる時間は、他の地域では味わうことができない特別なものです。対馬には5回来ていて、最初は「楽しい！」だけでしたが、徐々に「外から来た私たちに何ができるのか」と葛藤を抱える様になりました。しかし、この出会いの中で何かできることはないかと、東京に戻ってから仲間間で考え、行動する準備をしています。

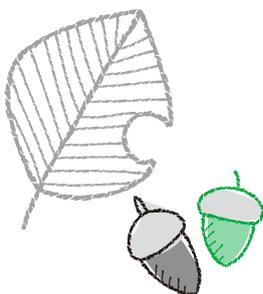


大学生の参加はこんな効果も!



学生からお母さんのように慕われている
栄田 梅子さん

数年前まで、外に一步も出ない生活を続けていました。下宿屋を営んでいたことから、ここに来る大学生を下宿させる機会ができ、みんなが「たたいま!」と帰って来てくれるから、生活に張り合いができて、外にも出る様になりました。元氣になった私の姿に、近所の人たちがビックリするほどです。



昨年の春に荒れた農地を再生させることから始まったアグリパーク。
 草を刈り、雑木を取り除き、近くの川から水を引くなど、かつての姿を取り戻し、秋にはたくさんの作物が実り、地域の人たちや大学生などが集まって収穫祭も行われました。
 作物の収穫を共に喜び、昔ながらのそばの脱穀作業や温かいそばを食べながら、子どもから高齢者まで参加者が笑顔でふれあう様子は、心温まるものがあります。



力を合わせ
水路づくり



温かいそばを
みんなで食べよう！



平成29年11月



立派なかぼちゃも
獲れました



心も体も
温まりました



暮らしを豊かにする『農』を次の世代に繋ぎたい



アグリパークプロジェクト推進委員会
 長 安六 会長

半世紀ほどの間に、効率の良いものがもつとも優れていると考える世の中になりました。その考えのもと、これまで行われてきた、自然と共に暮らす方法は失われ、ほとんど消えてしまいました。

しかし、70代以上の高齢者にはまだ、暮らしの方法を知っている方が残っています。アグリパークでは、その人たちの知恵を借り、次の世代へ継承する場所にしたいと思っています。子どもは遊びの中で学び、身体の自由がきかない高齢者の手を取って若い世代が働く。たくさんのお金に手にはできないが、人のつながりや生活の知恵を手にすることができます。

これが結果的に、高齢者の生きがいづくりや、地域の魅力づくり、自然の保護や保全につながるしていくと信じています。

人とのつながりが心を豊かにしてくれる

アグリパークは、自分ができることを持ち寄って作り上げる場所です。かつて人々が行っていた「共に暮らす」ことを目指しています。現代の生活は、便利な道具や生活スタイルの変化などにより1人でも生活できる便利なもので溢れています。しかしその結果、人や地域との関わりが少なくなっていく「孤独」や「孤立」につながるのではないのでしょうか。

そのような問題をすぐに解決することはできません。しかし、地域の人たちが顔を合わせて、皆さんがこれまで培ったことを、誰かのために生かすことで地域は元気になり、生きる意味が生まれます。対馬の各地では今、アグリパークのように地域の人たちが手を取り合って「暮らしを豊かにする場所づくり」に取り組んでいる人たちがいます。このような活動に皆さんも参加してみたいはいかがでしょうか？必ずあなたの心を豊かにしてくれるものがそこにあるはずです。